

琵琶湖文化館機能継承検討懇話会の検討状況について

1 琵琶湖文化館機能継承検討懇話会の開催状況

第1回	7月5日	・琵琶湖文化館機能継承の方向性について
第2回	8月23日	・琵琶湖文化館の後継施設(以下「後継施設」)の位置付けについて ・琵琶湖文化館の後継施設に必要な条件について
第3回	10月7日	・琵琶湖文化館の後継施設の整備内容について
第4回	11月22日	・琵琶湖文化館の立地について

2 第4回懇話会までの議論の内容

後継施設と近代美術館との関係	○後継施設には、滋賀県の文化財を将来にわたり保存・継承するための十分な施設・設備・人材が必要。そのため、近代美術館の拡張ではなく、 <u>独立性の高い施設、専門性の高い組織が必要。</u> ○滋賀の3つの美の発信のため、近代美術館との連携が必要。
文化財の保存の重要性	○過疎化等により地域や社寺自らの手で文化財を守ることがますます困難に。後継施設には、文化財の保存・継承の観点により重要。 ○現在の琵琶湖文化館の収蔵品を適切に収蔵できるとともに、将来の寄託ニーズの増にも対応できる十分なスペースの収蔵庫が必要。
人材の確保・育成	○文化財の適切な保存、継承、活用および調査・研究にかかる専門的な知識や技術、経験を備えた学芸員の確保・育成が重要。
施設の整備内容	○大規模な展示室でレプリカ等を交えた通史展示を行うような歴史博物館は目指すべきではない。 <u>コンパクトな展示室で、本物を、十分に練り上げた質の高い展示で見せる博物館とすべき。</u> ○展示と収蔵では収蔵により軸足を置くべき。 <u>地域に根差し、地域の文化財をしっかりと守ることができる人と設備を備えたものとすべき。</u>
整備スケジュール	○琵琶湖文化館の老朽化の現状や文化財を見る機会の逸失等の観点から、一刻も早い後継施設の整備が必要。 ○後継施設の整備に相当の期間を要するのであれば、整備までの間の琵琶湖文化館の収蔵品の保存活用について検討が必要。
立地について	○近代美術館との連携、文化財・寄託者の分布、これまで琵琶湖文化館が現在の地で活動してきた実績等から、 <u>大津市がふさわしい。</u> ○自然災害に強く、文化財を安全に収蔵保管できることが最優先。 ○都市計画やまちづくりとの連携も必要。
推進体制	○早急に専門家や学芸員を入れた体制により、コンセプトや施設の内容について具体的に検討すべき。

3 今後の検討スケジュール(予定)

令和2年	1月24日	第5回懇話会 琵琶湖文化館の機能継承方針(案)について
	2月	常任委員会(機能継承方針(原案)) 県民・関係者への意見照会
	3月	常任委員会(機能継承方針(最終案))

(参考) 琵琶湖文化館機能継承検討懇話会委員

氏名	役職等	備考・経歴等
伊熊 泰子 イマ たいこ	(株)新潮社「芸術新潮」編集部	・滋賀県文化審議会委員
石丸 正運 イマル しょうん	美術史家・名都美術館館長	・元近代美術館館長 ・元琵琶湖文化館館長 ・滋賀県立近代美術館機能・発信力強化検討委員会委員 ・近江の仏教美術等魅力発信検討委員会委員 ・新生美術館基本計画検討委員会委員 ・新生美術館基本計画検討懇話会委員
岡田 修二 オカダ じゅうじ	成安造形大学学長	・新生美術館整備推進専門家会議委員
佐藤 祐子 サトウ ゆうこ	(株)国華荘代表取締役社長	・みんなで創る美術館円卓会議委員
高梨 純次 タカナリ じゅんじ	公益財団法人秀明文化財団参事 (MIHO MUSEUM 研究・展示担当)	・元琵琶湖文化館学芸員 ・元近代美術館学芸課長 ・新生美術館基本計画検討委員会専門部会委員
根立 研介 ネダテ けんすけ	京都大学大学院文学研究科 京都大学文学部 教授	・近江の仏教美術等魅力発信検討委員会委員 ・県文化財保護審議会委員
福家 俊彦 フクヤ としひこ	園城寺(三井寺)執事長	・滋賀県文化財保護連盟役員
藤田 励夫 フジタ りきお	文化庁文化財第一課主任文化財 調査官(書跡・典籍、古文書)	・元県文化財保護課職員